

# 「あなたは、知っていますか？原発のすべてを」

～『日本と原発 4年後』 上映会 & 河合弘之監督兼弁護士講演会から～

2016. 11. 23大分市コンパルにて

グリーンコープ生協おおいた理事長 宇都宮 陽子  
(伊方原発をとめる大分裁判の会応援団共同代表)

現在、日本国内には北海道から九州まで、55基もの原子力発電所が存在する。(そのうち、九州電力川内原発、四国電力伊方原発の3基が稼働中。)日本に暮らす人々は、何を見て何を聞いて何を信じて、その存在をゆるしてきたのだろうか。いや、そもそも私たちは、何も知らされてなかったのだ。原発の真の恐ろしさを、その危険性を。2011年3月11日、東京電力福島第1原子力発電所が、レベル7ものの事故をおこすまで。

事故から5年が経過した。政府は、2030年までに原発による電力の割合を22%までに引き上げることを決め、大手電力会社は着々と原発稼働に向け準備を進める。福島では、高レベルの放射能汚染地域が存在し、現在も故郷に帰れない人たちがいる。帰れる目途さえ立たない人たちもいるなかで。

映画『日本と原発 4年後』では、巧妙にかくされた原発の真実を暴いていく。丸2年の歳月をかけ、2人の弁護士(その一人は監督&講演者の河合弘之氏)が、その眼でその耳で確かめた原発の真実。

福島では、放射性廃棄物が、フレコンパックに詰められピラミッドのように積み上がりながら、ふる里を侵食し続ける。常盤自動車道では、毎時5.0マイクロシーベルトを表示する放射線量標識が立ち並ぶ。低線量被曝に対する満足な定義もないなかで、子育てする母たちは苦悩する。そんな事実を知っても私たちは原発が必要と言い切れるのか。そして、映像は語る、あの事故当時、政府も東京電力も事実をひた隠し、国民を欺いてきた事実を。それでも私たちは、沈黙していられるのだろうか。

グリーンコープ生協は、「生命(いのち)を守る」ことを真ん中に、ゆるぎなく活動を進めて来た。原発の問題も同様に、「原発は、絶対に生命(いのち)と共存できるものではない」とし、チェルノブイリ原発事故より一貫して脱原発運動に取り組んでいる。

そして、新たな取り組みとして、本年春からの電気の小売り自由化を受け、電気の共同購入「グリーンコープでんき」をスタートさせた。今後、一定の調整期間を経て、2017年度中には、完全に原発の

電気に依存しない「原発フリーの電気」の販売を予定している。「原発はいらない」という組合員の「思い」を「グリーンコープでんき」につなぎ、脱原発運動をさらに広げる。そして、全ての原発を廃炉にするために、これからも一人ひとりの「思い」をつないでいきたい。

子どもたちの未来のために、今を生きる私たちの責任として。

**グリーンコープが売電**

来年から「原発フリー目指す」

グリーンコープおおいた 源ゼロを目指す電気「グリ」を来年1月から県内の組合員向けに始めると発表し、電源には組合員が出資して建設した太陽光発電施設などを使い、クリーンなエネルギーへのニーズに応える。

各地のグリーンコープの連合組織は、組合員の出資や他団体との共同事業などで再生可能エネルギー発電施設の整備を進めている。太陽光と小水力の施設が福岡や大分などに11カ所(建設中を含む、総出力9700kw)あり、2200世帯分の電力を賄える。

グリーンコープおおいたの宇都宮陽子理事長は「安全・安心な食品と同じように、原発フリーの電気を使用する。本年度は供給が不足する分を九州電力と電力卸売市場のバックアップで補うが、来年度中に丸紅新電力(東京都)から原発以外の再生可能エネルギー電源などを確保。原発ゼロの電力供給を実現する計画。電気料金は九電と同じ。販売先は本年度は共同購入の組合員で、来年度は全組合員に拡大する。」

既に福岡県で先行販売しており、来年1月に大分など他の九州各県、来年度から中国、関西でも始める予定。

初年度の契約数は大分県内で約1900件(全体で約2万7千件)を目標にしている。

「原発フリーの電気を求める人はいる。その電気表示には原発フリーの意思表示にもなる」と話している。

（第3種郵便物認可）

をめぐり  
グリーンコープでんき  
でんきを選ぶ。未来を選ぶ。  
原発フリーをめざす。  
グリーンコープでんき  
GREEN COOP

グリーンコープおおいた理事長 宇都宮 陽子